

事業報告書

令和6年1月1日から令和6年12月31日まで

特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら

1 事業実施の内容

当団体のミッションの追求として、隠岐の自然環境を保全するための活動を行いました。主とする核としては生物調査・保全活動・環境教育・エコツーリズムの3部門です。自然専門機関としての能力を高め、地域資源を発掘し活用することを通して、自然を生かした地域づくりに貢献し、地域住民が受益者となることで、さらに自然が保全されるという循環をつくり出すことを目指して各事業を実施しました。

自然環境教育の強化を目的とした活動の中でも事業費のメインとなっている森のようちえん「お山の教室」事業も10周年を迎え、さらなるステップアップへ移行するため、行政機関との協議を盛んに実施し、海士町のまちづくりの一員としての協働強化をはかり、また団体運営の基軸として安定化に向けて努めました。外に向けた環境教育の活動として、西ノ島の保育園の未就学児を対象とした自然観察体験会や海士町、西ノ島町の小学校、中学校、高校への出前授業にも力を注ぎました。

エコツーリズム関連事業として、国内での観光需要の高まりを受ける中、エコツアーガイド事業や交流事業など島外者の来島が増加し、昨年度に比べるとツアーガイドや研修講師としての要望も高まりました。このような動きの中で、職員のガイド力向上のための研修参加の機会を増やし、資質向上にも努めました。

自然保全に関しては、独自の自主事業以外に、今年度も環境省との連携を強化する中で、協働事業として自然保護活動に取り組みました。

(1) 自然環境保全事業

環境省や、保全調査活動を専門とする公益財団法人と連携し、隠岐の生物調査を実施しました。また、公共工事に対する環境アセスメント調査も行いました。

- ① 鳥類調査について、前年度に引き続き島根県の鳥類目録制作に向けた隠岐地域の調査として、島前地域のみならず島後地域についても調査を強化しました。この中で、新知見の記録保持を目的として、海士町内で確認した初確認種を論文としてまとめ連携する研究機関の研究報告に寄稿しました。また、調査活動報告としては、隠岐の文化財へ隠岐島前地域の鳥類相について取りまとめたものを執筆寄稿しました。

毎年実施している継続的な調査として、鳥類標識調査について、渡り鳥の通過状況の把握のため、海士町金光寺山にて春、秋の2シーズン実施、海士町中里地区で秋期に10日間を行いました。

- ② 昆虫部門の調査では、年間を通して昆虫サンプルの捕獲を行い隠岐の昆虫目録作成のための資料収集に努めました。
- ③ 地域住民を対象とした自然保護の啓発活動としては、環境省が新たな自然保全の制度として制定した自然共生サイトについて、島根県第一号の登録を目指して、あま環境ネットワーク事業で15年以上継続的に葦原の保全に取り組んでいる諏訪湾地域を提案しました。自然共生サイトの登録に向けて環境省と協働しながら申請書の作成を行いました。実際の申請は次年度以降に持ち越しとなりました。
- ④ 当団体の自主的生物保全活動として、金光寺山のオニヒョウタンボクとホテルカズラ及び諏訪湾の葦原の保全活動を実施しました。また、海士町教育委員会と協働し、国内唯一の自生地となるタケシマシウドの保全活動も実施しました。
- ⑤ 環境省との連携事業では、2022年度に西ノ島町星神島でドブネズミの侵入を確認したことから、緊急的な対策として当団体が委託を受けて殺鼠剤散布によるドブネ

ズミ駆除活動及び星神島で繁殖する鳥類への影響を調査するモニタリングを実施しました。

(2) エコツーリズム事業

新型コロナウイルスの影響は徐々に感じられなくなっており、ガイド業務や自然体験の実施数は昨年度と比べて約1.4倍の増加が見られ、来年度の旅行会社の予約も増加傾向にあります。コロナ禍の反動もあり、今年度は観光地への旅行が増加したと考えられます。また、近年の傾向として、少人数または個人中心の観光形態への移行が進んでおり、隠岐しぜんむらが実施している環境保全の視点や地域の特性を伝える手法がこれらのニーズと相性が良かったため、需要が増加したと考えられます。

- ① 今年度は隠岐DMOおよび島内の観光事業者である(株)島ファクトリー、(株)海士との連携が強化され、各事業所の目的に合わせたツアーや体験を実施することで、町内の観光事業体制の構築に貢献できました。特に(株)海士の運営するホテルEntôとの連携を強化し、しぜんむら所有のE-bikeの一部をEntôで管理することにより、円滑にツアーを実施できる体制が整いました。その結果、ツアーおよび自然体験の参加者の半数以上がEntôに宿泊されたお客様でした。現在、ガイドのスケジュールを共有することで、より円滑にガイドが実施できるシステムを構築しています。
- ② 昨年度の海外の旅行会社を対象とした商談会の影響もあり、昨年度に比べ英語ガイドの実施回数は1.5倍に増加しました。また、定期的に海外から海士町を訪れるツアー会社を確保することができ、今後さらに海外からのお客様の増加が見込まれます。
- ③ 島内向けには、隠岐ジオパーク推進機構から委託を受け、ガイド養成講座の一部の講師を務めました。また、実際にフィールドに出て動植物などについて学びながら、ガイド力や知識の向上を図りました。

(3) 環境教育事業

自然環境教育の強化を目的とした活動の中でも事業費のメインとなっている森のようちえん「お山の教室」事業も10周年を迎え、さらなるステップアップへ移行するため、行政機関との協議を盛んに実施し、海士町のまちづくりの一員としての協働強化をはかり、また団体運営の基軸として安定化に向けて努めました。外に向けた環境教育の活動として、西ノ島の保育園の未就学児を対象とした自然観察体験会や海士町、西ノ島町の小学校、中学校、高校への年間50日以上授業を実施しました。

- ① 海士町教育委員会の委託事業である森のようちえん「お山の教室」の活動は、月曜日～金曜日までの毎日型の開園としては8年目を迎えました。昨年度から引き続き園児は定員14名を上回る16名が在籍しており、特に移住者にとって海士町の魅力の一端となっていることが実感できます。
- ② 学校対象の環境教育活動としては、まず(一社)隠岐ジオパーク推進機構のジオパーク講師派遣制度により、島前地区の小中学校で24回、参加人数延べ270人に講師活動を行いました。学校教育の中にジオパーク学習が位置づけられていないため、学校教育カリキュラムの中でジオパーク学習の要素がある単元で単発的に学習を行いました。今年度は学校教員の理科学研究グループが大地の学習単元でジオパーク講師派遣制度を活用する動きがあり、島前3町村の小中学校で講師を務めました。また、島根県助成金の事業県民参加の森づくり事業では島前地区小学校3校で15回参加人数延べ350人に講師活動を行いました。地域の自然に親しみ、観察する活動や森・川・海の繋がりについての学習を行いました。

高校に対する取り組みとしては、隠岐島前高校や隠岐高校の環境学習の非常勤講

師として継続的に関わっています。

- ③ 保育園においては昨年に引き続き、西ノ島町みた保育園から島根県緑化推進委員会の自然体験出前講座やジオパーク講師派遣の申し込みがあり、国賀海岸遠足やみたダム林道への散歩に同行し海の生き物観察や山歩きをしながら草花遊びを教える活動をしました。みた保育園の保育士がお山の教室に視察に来るなど、保育士同士の学び合いが始まりました。来年度更に自然保育・環境教育の発展につながることを期待されます。
- ④ 大人の島留学制度で来島している島留学生のうち、地域探究コースに所属する 30 名に対し、7 回の研修を行いました。島前地域の地理的な基礎知識や地域環境課題について（竹害や漂着ゴミなど）フィールドワークをしながら学ぶ研修を行いました。団体としては初めての研修事業だったので魅力化財団側の「一人ひとりがオーナーシップをもつ」という目的にむけて丁寧にヒアリングをしながら研修を構築しました。今年度の研修の効果については今後、魅力化財団と検証し次年度に向けてブラッシュアップさせていきたいと考えています。

(4) 都市農村交流事業

今年度の宿泊利用者は昨年とほぼ同様の 283 名でした。大学のゼミ合宿・研修を目的とした利用に加え、県外の子どものスポーツクラブと海士町との地域間交流として来島された方やお試し島留学で来島された方の利用もありました。

施設利用実績は、例年通り堅調です。週 5 日のお山の教室参加者やインターン生に加え、地域間交流や会議の場として研修ホールの利用がありました。

宿泊人数合計：283 名 施設利用人数：77 名（お山の教室の利用除く）

(5) 地域住民生活支援事業

地域の野良猫抑制対策のための避妊、去勢手術の援助活動を 2 日間実施しました。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支報告書の事業費の金額(単位:千円)
自然環境保全事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の生物調査活動 ・海岸の保全活動 ・外来種生物に対する対策及び駆除活動 	(A) 通年 (B) 隠岐郡内 (C) 4人	(D) 隠岐郡の住民 (E) 2,400人	2,530
エコツアーリズム事業	<ul style="list-style-type: none"> ・エコツアーの新メニュー構築 ・住民向けジオパークガイド講座開催のため、推進協議会との協働 ・ガイド育成のための講座における講師 	(A) 通年 (B) 隠岐郡内 (C) 4人	(D) 隠岐郡内の観光関係者や商店等、来島者 (E) 200人	7,473
環境教育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の幼児、小中学生、高校生への環境教育活動 ・森林環境学習教室の開催 ・学生、企業、公務員等社会人対象自然環境研修の講師及び助言、補助 	(A) 通年 (B) 隠岐郡内 (C) 12人	(D) 全国 (E) 2200人	38,269
都市農村交流事業	<ul style="list-style-type: none"> ・島内者と島外者の交流活動 ・自然体験者への施設提供 	(A) 通年 (B) 隠岐郡海士町 (C) 4人	(D) 全国から海士町を訪れる旅行者と地域住民 (E) 220	3,805
地域住民生活支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域野良猫対策の支援 	(A) 通年 (B) 隠岐郡内 (C) 1人	(D) 隠岐郡の住民 (E) 100人	0